

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	塩尻市立 広陵中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	2	17	33
生徒数	180	163	188	11	542	

研究の概要

1. 研究主題

「生きる力」を育む教育課程の創造
自ら学び自ら考える力を育む授業改善・教材開発 指導と評価の一体化

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

< 数学 >
1 学年：中学校数学の基礎として重要な学年
2 学年：内容が多岐にわたり、生徒の理解度に差が出やすくなる学年
3 学年：生徒の理解度に差があり、個別的な指導が必要になる学年

< 英語 >
3 学年：生徒の理解度に差があり、個別的な指導が必要になる学年
2 学年：生徒の理解度の差が顕著になりはじめる学年であり、個別的な指導が必要となる学年

平成15年度教育課程研究指定校（文部科学省指定）により加配教員を得たため実施学年を拡大した。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「一人ひとりの実態に応じたきめ細かな数学科の指導はどうあったらよいか」 研究の見通し（仮説）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 習熟の程度に応じた各コースの指導計画と生徒自身によるコース選択のあり方を工夫することにより、自己理解にあった学習ができる 2 各コースの生徒の実態に応じた教材を工夫することにより、個に応じた学習ができ、理解力や問題解決力を伸ばすことができる 3 各コースの生徒の実態に応じた指導計画（単元・1時間）を工夫することにより、学ぶ力や考える力を伸ばし、学力の定着を図ることができる 4 選択教科の幅を拡大し、選択履修させることで、個性や学力の伸長を図ることができる 5 「総合的な学習の時間」の各学年のつける力を明確にし、題材の発掘・見直しを実践的に進めることで課題発見・追究力の育成を図ることができ、本校の総合的な学習の時間のカリキュラムの構築ができる 6 教師一人ひとりが自己課題を設けて実践を積み重ね授業力の向上を図る <p>研究内容・方法 数学・英語科を中心に習熟の程度に応じたコース別学習のあり方を実践的に進め、他教科への拡大を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 評価規準を入れ込んだコース別単元展開案・評価規準表の作成 2 習熟の程度に応じた各コースの1時間の指導展開案の基本型の作成と、単元の学習内容や教材ごとの単元展開案の作成 3 評価を基にした授業のあり方と自己評価カードの工夫 4 英語科における習熟の程度や課題別等少数数学習のあり方の究明 5 総合的な学習時間カリキュラムの作成を実践を通し修正しながら進める 6 学力向上を図るための問題点を教科指導のみでなく、学校の教育課程全
--------	--

般・家庭学習を含めて見直しを図り来年度への教育計画の作成に生かす
7 様々な角度から県外の実践校に学ぶ

1 4年度は枠作りを主に進める。1 5年度は、他教科への拡大や教材面・1時間の授業過程の更なる工夫などソフト面の充実を図る

平成
15
年度

テーマ 自ら学び自ら考える力を育む授業改善・教材開発
指導と評価の一体化

研究の見直し(仮説)

- 1 生徒の希望が生きる習熟の程度に応じたコースを設定し、コース選択をさせることにより自己の力に適した学習ができる
- 2 単元の学習内容を考慮し、各コースの生徒の実態に合った指導計画や教材を工夫し実践を図ることで、基礎・基本の確実な定着や、自ら学び考える力の育成を図ることができる
- 3 つける力を明確にした指導計画と評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図ることで個に応じた指導ができる
- 4 選択教科のガイダンスを充実させ、年間指導計画や1時間の指導計画を工夫することで、自己理解に基づいた選択履修ができ、個性の伸長に結びつく実践ができる(選択教科年間指導計画の作成)
- 5 総合的な学習のカリキュラム及び評価規準の作成を、個の学びの姿から修正し進めることで、本校のねらいを達成することができる
- 6 一人ひとりの教師が学力向上に関わる自己課題を持ち、授業公開をし授業力の向上に努めることで、生徒の授業への取組みが変わり学力の向上につながる
- 7 小・中の連携としてできることは何かを明らかにして小学校への協力を求める 小学校の体制がとれず今年度は断念する

研究の内容・方法

- 1 数学・英語・選択教科・総合的な学習の時間の4教科等を重点研究とし、職員全体で研究を深めていくことで、研究の成果が一般化でき、他教科にも成果を波及させる
- 2 評価規準表を基に、各コース毎に各単元の指導計画と評価計画を作成し、評価を生かすことで個に応じた指導のあり方を探る(評価カードの利用等)
- 3 数学3コース、英語4コースの各コースの指導内容や指導方法を生徒の実態から工夫することで生徒一人ひとりの確かな学力の向上を図る取組みをし、その教材の積み重ねを図る
- 4 選択教科のガイダンスのあり方や、年間指導計画・1時間の指導計画の作成を各教科毎に進める。この際、年間指導計画では、ねらいに達成させるために「節」または「期」を設け、段階的指導を図り、ねらいが達成できるように進めていく。
- 5 総合的な学習の時間の1・2年生の題材・評価規準の見直しと修正、3年生題材の新規開拓を進め、本校としての総合的な学習の時間のカリキュラムの完成をめざす。他校の教職員に本校の総合的な学習の時間の取組みを公開し見直しを図る(本年度教育課程校)
- 6 一人ひとりの教職員が自己課題に基づいた授業公開をし、授業力の向上に努める
- 7 学力実態調査を行い、指導に生かす(4月・3月)(10月県教委への協力)

平成
16
年度

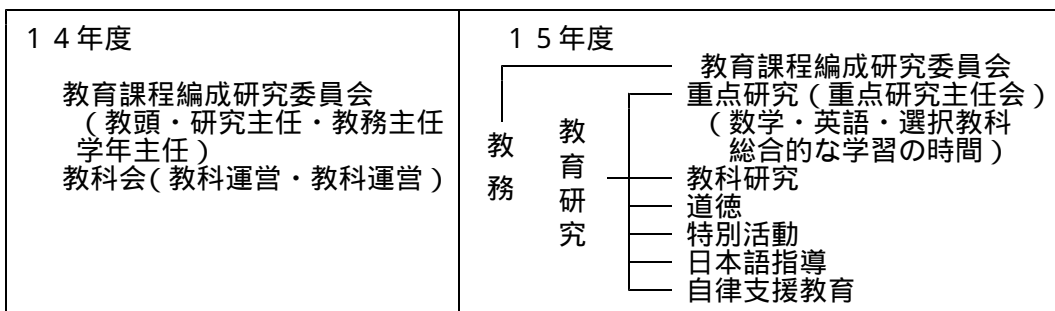
テーマ 自ら学び自ら考える力を育む授業改善・教材開発
指導と評価の一体化

研究の見直し

- 前年度までの研究内容(指導計画・評価計画・展開案・評価カード等を実践しながら見直しを図っていく)
- 1 評価規準・評価方法について研究を進める(教科・選択教科・総合的な学習の時間)
 - 2 重点研究教科等以外の教科について学力向上の具体的な推進を図る
- 研究の内容・方法
- 1 昨年度同様、数学・英語・選択教科・総合的な学習の時間の4教科等を重点研究とし全職員が研究推進に当たり学力の向上を図る
 - 2 公開研究日を設定し、研究の修正を図る
 - 3 1人ひとりの教師が授業公開を行い、授業改善を進める

4 CRT・教育課程実施状況調査等、学力実態調査を行いその成果を評価し、研究内容や研究方法の検討を行う

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

今年度は英語科を中心に実践研究を深めてきた。研究テーマを「音読指導を生かした習熟の程度に応じた自己表現活動はどうあったらよいか」と音読に焦点をあてた。「聴く」「話す」「読む」「書く」4領域の基礎・基本として、また自己の学力の伸び実感できると考えたからである。下記に研究概要を示す

- 1 コースの分け方・選択の工夫
3年5クラスを2・2・1と分け、2クラスを4コース、1クラスを2コースに設定する。1コースを20人前後になるようにする。また、4コースを生徒の実態に即した指導内容となるように単元毎に工夫する
- 2 全コース共通の評価場面の工夫
全コース共通の目標に達成したかを共通の評価場面を設け行う
- 3 自己評価カードの工夫
「できた・分かった」等のプラス面の評価を行うことで意欲的な取組みとなるようにする。また、教師側からみれば、授業の見直しにもなる
- 4 音読指導の工夫
各コースの生徒の英語力に応じて、様々な音読指導を手だてとして用いることで、意味のかたまりを意識しながら「Read and look up」を到達目標を達成させる
- 5 音読指導から話す自己表現活動への橋渡しの工夫
「意味のかたまり・まとまり」を大切に、活用する力の育成を図る指導の工夫をする
〔英語科成果〕

- 1 「音読指導に焦点を当て、そこから自己表現につなげていく」研究方向や、「各コース毎の生徒の実態に応じた音読指導」は基礎・基本の定着の上で大変有効である。基礎コースの生徒が「Read and look up」や「listen and look up」を自信を持って楽しみながら学習ができるようになった
- 2 自己評価カードにより、評価を次時に生かすことが学力の向上につながる。また、教師の朱書きや授業中の対話など評価を生徒に返すことが大切である
- 3 2クラスを4コースに分けることは、人数が少人数になるということよりも生徒の実態に応じたコース設定が可能になり個に応じた指導が可能になる
- 4 英語の楽しさは表現できたときの喜びにある。自己表現力を高めていく方向はよい
- 5 具体的な数値での成果は評価テストが未実施のため示すことはできない
英検受験者の様子で表すと ()内合格者数準2級・3級は1次・2次

	平成14年度		平成15年度	
	2回目	3回目	2回目	3回目
準2級	2 (1)(1)		14 (4)(3)	3
3級	28 (21)(21)	17 (13)(13)	29 (25)(23)	10
4級	28 (22)	19 (16)	7 (6)	25

15年度2回目は2年生が行事ため受験していない
15年度3回目は未実施のため合格者数は不明

〔重点研究全体としての成果〕

- 1 自己評価カードを工夫することで、評価を生かした指導がより深まる(数学科ではA・Bの評価規準を基に、各コース毎単元展開を作成し、その評価規

- 準を自己評価カードに入れ込む工夫をした)
- 2 総合的な学習の時間では、学校全体の指導計画・評価計画の作成が見完了した。来年度以降、指導計画を更に修正等を加え充実させていくことが可能になった
 - 3 選択教科では、ガイダンスのあり方や各教科の年間指導計画の作成ができた。来年度はこれを基に内容面で研究を深めていく必要がある。
 - 4 国語科2年でT T・少人数指導を試みた。文法や漢字の読み書き等では効果が上がった。

2. 今後の課題

- 1 年間指導計画等枠組みの作成はほぼ作成し終えることができた。16年度はこれを実践を通して見直し、蓄積を図っていく。特に、数学科では数学的な表現力の育成などもう一步指導を深めたい。また英語科においては、音読指導と自己表現力の育成の指導のあり方について深めたい
- 2 教師一人ひとりの授業力の向上、授業改善なくして学力向上はあり得ない。一人ひとりの教職員が自己課題を持って授業公開をし授業改善を具体的に図っていく。
- 3 学力の実態を把握する方法の検討
- 4 外部講師・ALTとの協力方法や協力内容の検討

学力把握のための学校としての取組

- 4月14日：学力実態調査（実態把握）
 1年：国語、算数（以前の県の学力調査問題）
 2年、3年：国語、算数、英語（文部科学省教育課程実施調査問題）
 10月 2日：県の学力実態調査への協力
 2月上旬：CRT（英語科実施予定）
 高校学力検査の経年比較

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 公開授業研究会：平成15年10月29日（水） - 英語科における取組み
 参加者36名（県外3名）
 来年度予定：平成16年10月末
 数学・英語・総合的な学習の時間・選択教科等学校全体の学力向上の取組みを公開する予定。
 - * 学校訪問者への説明：石川県石川郡校長会・入間市東金子中学校等
 - * 「全国中学校研究校便覧」第15集掲載
 - * 「中学校の学力向上戦略プラン集」明治図書発行に掲載
 - * 公開授業研究会の参加者の感想
- 1 音読のステップの指導が大変参考になりました。基礎の2コースの生徒が楽しく学習に取り組んでおり、自信を持って「read and look up」ができていて感心しました。毎時間の音読に力を入れての指導が生きていることが分かりました。
 - 2 広陵中学校の学力向上に対する考え方「評価を次時に生かそうとする姿勢が授業の中や、生徒の評価カードに見られ参考になった。」
 - 3 音読指導が基礎基本の定着に有効であると考えていたが、実際の生徒の姿を見て納得しました。自己表現活動へのステップを更に研究を深めて教えていただきたい。
 - 4 各コースの音読指導のやり方が大きく反映すると思いますが、徹底的に音読をするということ、自信にもつながり、教科書を手にしなくても表現しようとする意欲につながっていくと思いました。自己表現は自分に自信がないとできないことだと思います。
 - 6 音読指導により表現力をつける。子どもたちの意欲を伸ばしていくという方向は大変有効であると思った。
 - 7 自己評価カード（英語・数学）とても参考になりました。評価規準をどう授業に生かすか、数学科の取組みはすぐにも使えそうです。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無